

第3回 学校運営協議会 議事録

1 日時 令和6年2月16日(金) 午前10時から11時25分まで

2 会場 静岡県立吉田特別支援学校会議室

3 参加者

○委員

【保護者】	畑 和幸 様	P T A会長
【地域住民】	桐田不二雄 様	吉田町片岡区自治会長
【学校運営に資する活動者】	藁科 知行 様	駿遠学園管理組合園長
【学識経験者】	横山 孝子 様	浜松学院大学教授
【その他】	栗林 均 様	社会福祉法人一羊会理事長

○学校

校長	稲葉 敏光	副校長	池上 千穂	事務長	土戸 美樹
教頭	松本比呂美	分教室教頭	小澤真由美		
小学部主事	井鍋 恭子	中学部主事	菅野 圭	高等部主事	田中 康暁
肢体訪問統括	山本 由希	教務主任	和田加恵子	進路指導主事	野田 清志(欠席)
コーディネーター	紅林 亜朋				

4 議事録

*司)司会 委)委員 学)学校職員

(1) 校長挨拶

昨日、高等部の入学者選考が行われるなど、来年度に向けて様々な準備が進んでいる。今日は、今年度の反省を踏まえて、来年度につながる話し合いをしたい。来年度から2年間、共生共育について、県の研究指定を受けることになった。本校が大切にしてきた「つながり学習」の取組を生かし、地域を担う人を育てていくこと、地域の理解を深めることについて研究をしていく。その点についても御助言があれば伺いたい。

(2) 協議

ア 令和5年度学校経営計画について(まとめ)

(ア)本校の説明

(イ)質疑応答

委)「もえぎまつりを地域に開放したが、地域の理解につながっているか定かではない」と記載されているが、「定かではない」としたのはどのような理由

からか。

学) 楽しみながら一緒に活動する等はできたが、理解の度合いについてアンケートを取る等のことはしていなかったからである。今後やっていきたい。

委) 教員の専門性のレベルアップについての評価には、「迷いながら取り組んでいる教員が多い」とある。どんな点について迷っているのか教えてほしい。

学) 児童生徒の思考・判断・表現を引き出す授業づくりを目指して取り組んでいる。例えば、作業学習では、ただ手を動かして作り続ければよいのではない。昨日の失敗を今日はどうするか等、手は止まっても考えるということが大切である。そのような学びの課程をきちんと見取って指導の改善につなげたい。このような授業づくりについて迷い、意見交換しながら取り組んでいる。

委) キャリア教育の充実について目標に掲げられ、評価はAとなっているが、学校の進路指導について厳しい意見を聞くこともある。進路の多様化も進んでいるが、それについての先生方の理解はあるか。

学) 進路について詳しい教員を増やすことは課題である。進路指導担当が担任とコミュニケーションを取り、生徒の実態を分かった上で、外からのニーズに合わせて進路を考えていくことも必要である。

委) 働きやすい職場づくりについては、価値観やコミュニケーションの仕方は世代間で違いがあるということを押さえておきたい。その上で、若手もベテランも遠慮なく意見を出し合いながら教育活動を進めていくと良い。「迷いながら取り組んでいる」という話もあったが、それで良い。日常的な話し合いが大事。

授業については、特別支援学校では「集団」と「個」の二つの視点を持つことが大切で、難しい点でもある。学年段階として目指す姿と個の実態にギャップがある子もいる。個については、個別の指導計画で目標を立てて力を付けたい。

生涯学習に関しては、日常の指導に追われて実践が難しいこともあるだろう。クラブ活動等で余暇につなげていく取り組みもあるので、参考にすると良い。キャリア教育については、イコール進路指導ではないということを、今一度確認して指導に当たると良いと思う。

委) 本校の保護者から家の事情も含めて進路等について相談を受けた。地域の一人として相談してもらえて嬉しかった。

委) もえぎまつりに地域の人も入れるようになり、とても良かった。就学前の子ども達や保護者にとっても大切な機会である。一般の入場者用の駐車場がないことが残念だった。

学) すでに学校外の駐車場をいくつか借用しているが、全校児童生徒の保護者等の駐車場の確保でぎりぎりの状態である。校内の反省でも一般用の駐車場についての意見があるので検討したい。

(ウ) 分教室の説明

(エ) 質疑応答

委) 自分や相手の良さが分かることを目指して指導しているということだったが、それはとても大切なことである。視覚的な支援等手立てが功を奏していると感じるので、続けてほしい。

自立活動の指導について、きちんと理解しPDCAサイクルで授業改善をしている点がとても良い。これができる教員は、特別支援学校の教員として一人前と言えらるだろう。

地域資源を活用した授業について、充実している点も良い。本物の体験に勝る学習はない。その体験が、どう成長につながったか評価することも大切にしてほしい。

委) 外に出る機会が多く、経験を重ねていることは非常にありがたい。分教室の児童生徒は、障害だけでなく、アタッチメントや家族の状況などいろいろなことを本人も考えなくてはいけないという難しさがある。だからこそ、経験や、各所との連携を大切に育て上げたい。

イ 令和5年度コミュニティ・スクールの取組について (まとめ)

(ア) 説明

(イ) 質疑応答

委) 取組が進んで根付いてきている。子どもたちにとっては、学校の教員もボランティア先生もどちらも「先生」となっている。発表やプレゼンなどのお披露目の場をボランティア先生と一緒にやり、次につなげていくと良い。

委) 地域とのつながりを大切にしていることが分かる。今後、コミュニティスクールとしての発表の場が持てるか？

委) コミュニティスクールとしての取組以外にもかなり地域に出ている。それらも一緒に考えてまとめていけると良いのでは？

学) 発表の場、つながり学習の考え方の整理等、校内で検討したい。

(3) 報告

進路指導の状況

委) 従来の進路先以外にも、通信制高校等、多様な進路先が増えてきている。高3生徒が自分が進路をどのように決めたか発表する機会があるとのことだが、高等部内だけでなく、ぜひ中3の生徒にも聞かせてほしい。

委) 通信制高校等に進んだ生徒が、その後就職等できているか心配な面もある。

学) 進路先の多様さについては、本人や保護者に卒業生の事例などを伝えながら説明している。継続して理解を促していきたい。

(4) 次年度に向けて

令和6年度学校経営の方向性について

(5) 閉会

